



社会福祉法人

京都視覚障害者支援センター

2023 年度 事業報告

【法人理念】 希望に満ちた成長への喜び

【行動指針】 働く力、よりよい生活、あなたの能力や可能性に合った
自立に向けての支援を行ないます

〒610-1111 京都市西京区大枝東長町 1-67

社会福祉法人 京都視覚障害者支援センター

TEL075-333-0171 FAX075-333-0172

Email: info@kyo-ssc.com

目 次

I	2023 年度 法人概要	1
II	各部門別報告	2
A.	障害者支援施設 洛西寮	2
1.	施設入所支援	2
2.	らくさい作業所（就労継続支援 B 型）	6
ア.	作業支援	6
イ.	生活支援	8
B.	三療事業所	9
1.	美鈴治療院（就労継続支援 B 型）	9
2.	就労継続支援 A 型「らくさい治療院」	9
C.	障害者相談支援事業所 スマイルサポート（指定特定相談支援事業）	10
D.	点字出版施設「紫野点字社」	11
E.	京都府視覚障害者訪問相談員派遣事業	12
F.	法人	13
1.	事務局	13
2.	主催行事	15
3.	共催事業	16

I 2023年度 法人概要

はじめに

今年度は、2023年5月にコロナが5類になり、通常の施設運営ができるよう整備する年度となり、特に、洛西寮は、年間行事の再開、登録ボランティア募集及び活用、外出支援等、開かれた入所施設として本来の姿を取り戻すスタートの年となった。

そして、治療院、美鈴においては、AB多機能型として1年を通して運営ができ、いずれも患者数、売上が前年を上回り、健闘できた年となった。

障害者支援施設洛西寮及び三療事業所（就労 AB 多機能型）の成果と課題のポイント

1. 洛西寮

【成果】

- ① 春と秋の行事、洛西寮まつりの復活
- ② iPhone講習会、歩行訓練、買い物支援等による生活の充実
- ③ 利用者の休日の外出に対するボランティアの手配

【課題】

- ① 安定した職員体制及び後進の育成
- ② 看護体制の整備及び生活への支援の充実
- ③ 余暇活動の再開

2. 三療事業所（AB多機能型）らくさい治療院・美鈴治療院

【成果】

- ① らくさい治療院、美鈴治療院いずれも患者数及び売上が前年を上回った
- ② 安定した利用者確保ができた
- ③ AB多機能型として、コンプライアンス、スキルアップの試み、業務遂行等、共通認識が深まった

【課題】

- ① 施術の再現性の意識化を図る
- ② 患者への施術の際の対応
- ③ 利用者のコンディションの自己調整

3. 法人経営戦略会議から

法人経営戦略会議を発足した2020年度は、新型コロナウイルス感染症のパンデミックから始まり、コロナ禍への対応、多床室個室化、美鈴の補助金見直し、京都府委託事業である京都府視覚障害者訪問相談派遣事業の補助金20%削減、就労継続支援A型報酬改定のA型スコア表の大幅な改定によるA型としての存続の難しさ等、法人経営の展望は非常に厳しい状況にある。

さらに、2026年度から義務化となる「入所利用者の地域移行施策」すなわち入所利用者が地域での生活を希望する場合、地域へ移行するための支援を行う。この施策が実施されるまでに、今後の洛西寮入所のあり方を検討する必要がある。

この難局を機会と捉え、必ず乗り越えて視覚障害福祉の光を灯し続けることを我々の使命とし、次の世代につなげていくことに尽力する。

II 各部門別報告

A. 障害者支援施設 洛西寮

1. 施設入所支援

【概要】

年度初めは定員より4名減の26名の入所利用者からスタートしたが、新規入所利用者が2名、退所利用者が2名で期初と期末の増減はなかった。新規入所利用者の内1人は、家庭状況の変化で通所利用から入所利用に変更になった利用者で、今後このような変更の可能性のある通所利用者が数人予想される。

定員を満たすための利用者確保の取り組みは、全国の基幹相談支援センターへチラシを郵送するなど、積極的な広報活動を行ったが、他府県の訪問訓練・相談事業所を訪問することは、職員体制が不足していることもあり実現できなかったため、次年度の課題となった。

看護師が年度途中で退職し補充に努力したが採用にいたらず不在状態が続いているため、利用者への医療は看護体制や生活への働きかけの支援が不足している。医療看護体制立て直しが次年度の課題となった。

【成果】

- ① 利用者確保に向けての取り組み
- ② 全国の基幹相談支援センターへの広報活動
- ③ 新型コロナウイルス等、感染症予防の徹底
- ④ 職員間の連携・情報共有が強化
- ⑤ 府内他施設との連携
- ⑥ 利用者緊急時の状況に沿った対応
- ⑦ 職員への視覚障害理解と資質向上のための研修
- ⑧ 登録ボランティアへの視覚障害理解と資質向上のための研修
- ⑨ 春と秋の行事、洛西寮まつりの復活
- ⑩ 地域の視覚障害者への洛西寮4Fホール・3F会議室の会場利用を再開
- ⑪ 利用者の休日の外出に対するボランティアの手配
- ⑫ 利用者の通院の介助と療養の相談
- ⑬ 地域移行希望利用者への支援
- ⑭ 通所利用者の緊急時の受け皿機能

【課題】

- ① 看護体制の整備
- ② 生活支援の充実
- ③ 入所利用者の定員確保への更なる取り組み
- ④ 感染症拡大時の体制作り(持続性と業務標準性)
- ⑤ 日直者・夜勤者との密なコミュニケーションと資質向上に向けた働きかけ

【各サービス内容】

ア. 健康管理

【概要】

年度途中で看護師が退職したが、看護師不足の社会的状況もあり、新しく確保することが困難な状況が続いている。そういった職員体制の中でも、医療的な支援の不足が出ないように、支援員が一丸となり、医療的支援体制を維持した。

【成果】

- ① 新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症対策の最新情報の取得と実施。
- ② 単独通院が困難な利用者、または急病の利用者に対して、通院介助及び入院時の支援。
- ③ 嘱託医との連携による、利用者個々の医療課題の把握とニーズに沿った支援の実施。
- ④ 利用者個々の状況に合わせた、確実な服薬管理。

【課題】

- ① 看護体制の整備
- ② 感染症対策など最新情報に常にアプローチし、専門性に基づいた理解と習得
- ③ 利用者の健康維持に向けた、意識付けの継続と自発的行動の定着

【実績】

- ① 利用者の健康診断等の実施状況

期日	実施内容	対象者	人数	実施者等	実施場所
毎月1回	嘱託医健診	希望者(7・2月は全員)	130	洛西寮嘱託医	洛西寮医務室
	寮内健診	全員	438	洛西寮栄養士	洛西寮医務室
6月	基本健診	全員	34	鳥羽健診クリニック	洛西寮
6月	胃がん検診	50才以上希望者	1	医療機関	洛西シミズ病院
6月	大腸がん検診	40才以上	10	京都予防医学センター	洛西支所
8月	歯科検診	希望者	2	京都府歯科医師会	洛西寮

② 通院件数

年度	通院件数
2018 年度	434 (うち介助 342)
2019 年度	416 (うち介助 348)
2020 年度	260 (うち介助 210)
2021 年度	285 (うち介助 224)
2022 年度	282 (うち介助 212)
2023 年度	340 (うち介助 249)

イ. 食生活と栄養管理（衛生管理含む）

【概要】

利用者の栄養状態の維持や改善、基本である食生活の質の向上を更に目指した。

作業中、作業後、休日などの自由時間も含めた生活全般を考慮し、栄養面を含めた支援計画会議等を通じて、多職種と連携しながら個々の特性・体調面に配慮した支援とその検討を行った。又、食事面では、前年度に行った委託業者の選定（プロポーザル）により着任した栄養士、調理師との連携を深め、食事の基本に立ち返り「美味しい食事(適時適温)」「季節感の取入れ」「丁寧な盛り付け」を実現。コロナ禍開けにて再開できた春の行事、秋の行事では担当職員と連携し昼食に人気が高いバーベキュー、すき焼き定食を選定した。また誕生日のリクエストメニューに関して大量調理では実現しにくい献立を、委託業者と連携を図り、調理方法を工夫するなどし、提供を行った。これらの積み重ねにて利用者の満足度が充足した。また、給食委員会を開催し、給食会社と更に情報共有と調整を計った。

衛生面に関しては、昨年同様、入所者1名が新型コロナウイルス感染症に罹患する場面もあったが、多職種との連携により、初期罹患者のみで押さえることができた。

【成果】

- ① 新型コロナウイルス感染症に罹患する利用者が1名あったが、前年度の経験をもとに、衛生面に配慮し、罹患者のトレーは使用后、次亜塩素酸消毒、食器は Disposable 食器の使用で問題無く食事提供ができた。
- ② 引き続き HACCP（衛生管理の国際的な手法）感染症対策マニュアル、殺菌基準等の周知徹底を図った。
- ③ 発熱・感染症（隔離）時の食事提供と、粥・きざみ食等の臨機応変の対応を行った。
- ④ 食堂のテーブルにパーテーションを設置し、飛沫感染予防に努めた。
- ⑤ 適時・適温での食事提供を目指し、盛り付けおよび配膳の徹底を行った。
- ⑥ 誕生月のリクエストメニューや、鍋料理、ティータイムは手作り菓子を中心とし、好評を得ることができた。
- ⑦ 医師の指示に従った療養食の提供と、個人に則した栄養指導を実施した。
- ⑧ 委託業者との連携を密にし、利用者へ食生活の充実とそれに伴う心の安定に貢献した。

【実績】

- ① 健康状態・食事状況・生活習慣等を把握し、日々健康で働き続けられるよう、多職種との連携により生活支援を行った。
- ② 行事が再開したことにより、本来の楽しみの1つである寮外に出て食べる楽しみの外食、寮内でのクリスマス会でのピザ、新年会でのにぎり寿司、そういったことと絡めての食事への興味であり、楽しみを増やすことが出来た。
- ③ 委託業者との連携により「食事時間に温かい物は温かく、冷たい物は冷たく食べる。」
「薄味でも出汁の効いた美味しく健康的な食事を食べる」こうした基本的な食生活を自然と身に付けることが出来た。

【課題】

- ① 利用者個々の特性を重視する余り、体重増加が見られる利用者もいるため検査値上昇の可能性が懸念される。
- ② 疾患を持っている利用者に対して、栄養士に頼り過ぎる余り、自立心の育成が立ち遅れている部分がある為、自身での考える力の育成が不足している。

ウ. 余暇活動支援

【概要】

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の取り扱いが2023年5月に2類から5類に移行されたことを受け、主催行事の春と秋の外出、洛西寮まつり、新年会を4年ぶりに実施した。コロナ以前に講師を招いて行っていた月に一回のヨガ・音楽（合唱指導）、ボランティアとの学習機会の選択科目点字・社会（学習）などは内容の再検討をしながらも、準備不足で実施できなかった。

【成果】

- ① 春の行事は、警報の出る悪天候により企画の大幅な変更を必要としたが、洛西寮内で焼き肉バーベキューを実施した。
- ② 秋の行事は、4年ぶりに貸切観光バスによる近江八幡日帰り旅行を実施した。
- ③ 洛西寮まつりは、気候の良い10月に地域との交流を意識した企画で開催され、地域住民に毎年開催を熱望される好評を得られた。

【課題】

- ① 音楽や運動などのレクリエーションや点字や社会などの学習機会の再開
- ② リフレッシュや運動不足解消などを目的とした、手近な場所への外出企画

エ. ボランティア支援サービス

【概要】

6名がボランティアを辞められたが、朗読ボランティアの積極的な募集によるものと退職職員の登録で結果3人ほど増え、総勢31名となった。

秋の行事では、4年ぶりのバス旅行に13名のボランティアに丸1日参加していただいたことは大変感謝すべきことであった。

【成果】

朗読ボランティアによる毎週月曜日の「こんな話あんな話」、土曜日には月4回の対面朗読を復活させ、実施していただいた。

秋の行事以外にも、七夕会、洛西寮祭り、クリスマス会とそれぞれ10人以上のボランティアさんのご協力を得ることができた。

【課題】

土日等、外出サポートをしていただくボランティアさんが5人ほどで、スケジュールもなかなかあわず確保に苦労している。今後登録ボランティア以外での協力を確保していきたい。

また、個別に本読みをしていただく、読み書きサービスなども復活をして利用者への豊かな生活の一コマとしていきたい。

【実績】

- ① ボランティア登録者数 31名
- ② ボランティア活動実績

活動内容	延人数
作業	70
朗読	472
選択科目	0
手引き	7
行事	51
合計	600

2. らくさい作業所（就労継続支援B型）

ア. 作業支援

【概要】

職員体制が脆弱なため1年を通して非常に厳しい状況が続いたが、全職員関わりの下で運営していくことが出来た。後進育成を計画に上げていたが厳しい体制の中では思うように進めることが出来なかった。

そのような中でも、個々の可能性に沿った支援により、たくさんの利用者の成長を見ることが出来たのは成果であり、高工賃を目指して作業の効率化にも取り組んだ。

また、長年販売していた黒豆茶ティーパックが業者の廃業により黒豆が手に入らなくなり、販売終了となった。

【成果】

- ① 少人数体制での運営
- ② 利用者の成長
- ③ 作業の効率化

【課題】

- ① 安定した職員体制
- ② 後進育成

【実績】

① 作業科目一覧

科目	内容
点字印刷	市民しんぶん、市会だより、京都市部局情報誌、盲導犬協会情報誌
封入発送作業	市民しんぶん拡大版
ミシン縫製	下請：和装用袋、ヒモ通し、袋物、カバンの込み入れ作業、おみくじ・お守り等 自主製品：給食袋・体操服入れ・白杖入れ・手提げ袋・マスク等
箱作業	京菓子箱：八つ橋・京の夢丸
数珠加工	数珠玉通し
黒豆茶	ティーパックの袋詰め作業

② 売上（単位：円）

科目	2023 年度
点字	10,684,263
自主製品	341,420
縫製下請	330,107
箱作業	793,540
数珠加工	72,780
黒豆茶	228,510
自販機	216,370
その他	5,968
合計	12,672,958

③ 工賃

年度	総支給月数 合計③	就労時間 合計①	工賃支払総額 合計②	平均工賃月額 (一人あたり) ②÷③	平均工賃時間 ②÷①
2022	446 月	35,726 時間	8,054,192 円	18,059 円	225 円
2023	424 月	35,681 時間	8,065,178 円	19,022 円	226 円

イ. 生活支援

【概要】

職員体制が十分でないため、取り組みにも限界があり非常にもどかしい1年となった。

そんな状況の中でも、新しい試みである iPhone 講習会や歩行訓練・買い物支援等の必要最低限の支援は行うことが出来た。

月1回の居室支援も継続して行い、意識の定着に加えて衛生環境の維持に努めることが出来た。

また、引きこもりの方の社会参加という大きな変化も見ることが出来た。

【成果】

- ① iPhone 講習会、歩行訓練、買い物支援等による生活の充実
- ② 居室支援による衛生環境の維持
- ③ 引きこもりの方の社会参加

【課題】

- ① 安定した職員体制
- ② 余暇活動へのアプローチ

【実績】

プログラム	内容
買い物支援	近隣の商店や桂川イオンへの買い物同行や計画の支援
シーツ交換	必要な利用者に対して、寝具を整え、衛生管理支援
一斉居室支援	居室の衛生保持のための清掃支援と整理整頓の支援

B. 三療事業所

1. 美鈴治療院（就労継続支援 B 型）

【概要】

2022 年 10 月に盲人ホームから就労継続支援 B 型に移行し、治療コース・治療価格・営業日など様々な変化があったが利用者や患者様の理解を得ることができ、利用者確保や患者数の増加など滞りなく順調に行うことができた。

【成果】

- ① 利用者数増員。(9 名 (1 名病欠) →10 名)
- ② 患者数・売上ともに前年を上回ることができた
- ③ 利用者間の交流・情報交換の場を提供することによりコミュニケーション力や積極性・行動力の向上につながった。
- ④ 就労継続支援 B 型の体制が整い利用者個々のニーズに合わせた支援を行うことができた。

【課題】

- ① スキルチェックを強化し技術の向上と患者数 UP を図る
- ② より良い対人関係の構築とそれを維持する力をつける支援を行う
- ③ 利用者就職活動支援
- ④ 利用者確保のための広報活動
- ⑤ 患者数・売上・前年 101%を目指す

【実績】

- ① 年間患者数=3,956 名 (前年比 105%)
- ② 年間売上=13,858,000 円 (前年比 107%)
- ③ 平均工賃 (10 月~3 月)

年度	総支給月数 合計③	就労時間 合計①	工賃支払総額 合計②	平均工賃月額 (一人あたり)②÷③	平均工賃時間額 ②÷①
2022	43 月	6,835 時間	5,785,381 円	134,544 円	846 円
2023	101 月	15,730 時間	12,472,700 円	123,492 円	793 円

2. 就労継続支援 A 型「らくさい治療院」

【概要】

開所して 10 年、地域に必要とされる施設として努めてきた結果、物価上昇の影響も受けながらも患者数、売上が前年を超えることができた。今後も技術向上に邁進する。

【成果】

- ① 物価上昇の年度であったが、患者数前年比 103%、売上前年比 105%となった。
- ② スタッフ個別月別指名数前年比、10 人中 6 人が上昇している。
- ③ 施術の再現性を確立しつつあるスタッフが 10 人中 6 人となっている。
- ④ コンディションの調整と施術のクオリティーの関係性の理解が促進されている。
- ⑤ 世界盲人連合アジア太平洋地域での「ブラインドマッサージデモンストレーションショー」
として表彰された。

【課題】

- ① 施術の再現性の方程式を再度見直すこと
- ② 患者との身体的、心理的距離感を意識すること
- ③ 治療院内のコミュニケーションを促進し、業務上の共通認識を図る
- ④ スタッフの施術プラン及び施術時間管理

【実績】

- ① 年間患者数=6,665 名（前年比 103%）月平均 555.4 名
- ② 年間売上=23,637,600 円（前年比 105%）
- ③ 平均賃金

年度	総支給月数 合計③	就労時間 合計①	工賃支払総額 合計②	平均工賃月額 (一人あたり)②÷③	平均工賃時間額 ②÷①
2022	120 月	16,166 時間	19,934,209 円	166,118 円	1,233 円
2023	120 月	16,127 時間	20,966,088 円	174,717 円	1,300 円

- ④ 年度別月平均個別指名数の推移（%）

年度	S 氏	Y 氏	N 氏	O 氏	K 氏	T 氏	K 氏	S 氏	I 氏	H 氏
2022	69.7	66.5	56.8	46.3	42.8	39.8	32.6	25.8	16.8	15.9
2023	75.3	66.8	56.8	50.0	41.0	31.6	38.3	28.0	17.1	15.7

C. 障害者相談支援事業所 スマイルサポート（指定特定相談支援事業）

【概要】

- ① 障害福祉サービスの支給決定が円滑に行われるようにサポートした。
- ② 洛西寮利用者へピアカウンセリングを実施した。

【成果】

- ① 計画相談業務を概ね滞りなく実施し、円滑なサービス利用へとつながった。
- ② ピアカウンセリングの実施。順番以外の希望者も並行して実施した。

【課題】

- ① 特に対象者が多い月の業務円滑化
- ② 請求業務チェック機能の強化

【実績】

① 計画相談

提供月	計画	モニタリング
4月	0	4
5月	1	2
6月	3	4
7月	3	3
8月	5	2
9月	1	5
10月	0	5
11月	1	2
12月	0	6
1月	3	7
2月	0	2
3月	1	2
合計	18名	44名

・ カウンセリング・・・99名（延べ人数）

D. 点字出版施設「紫野点字社」

【概要】

京都市の広報物や会議資料等を中心に、視覚障害関係団体等の点字出版物を製作した。

【成果】

- ① らくさい作業所との連携による、京都市点字広報物の出版
- ② 京都市の少数（会議資料等）への迅速な対応
- ③ 京視協支部の点字資料の作成を安価に迅速に対応
- ④ 視覚障害者関係事業所の点字広報を作成

【課題】

- ① 点訳者の養成・育成
- ② 納品までのタイトな日程の注文への対応
- ③ PDFデータのテキスト化への対応
- ④ らくさい作業所点字部門との連携・体制の強化

【実績】

	実績（枚）	前年比実績（％）
製版	4,467	101.68%
塩ビ版印刷	290,899	98.70%
パソコン製版	1250	262.61%
パソコン印刷	7,866	125.19%
点字名刺、はがき	2,764	111.36%
点字シール	3,610	95.86%
発送	1,535	74.84%
墨字印刷	22,891	97.11%
墨字入力	3	150%

E. 京都府視覚障害者訪問相談員派遣事業**【概要】**

- ① 本年度も、南丹、乙訓、山城北、山城南の医療圏域の相談活動を展開した。また、本事業及び法人施設の広報活動にも力を入れ、孤立、孤独し、情報が届かない視覚障害者をなくす活動を実施した。
- ② 新規相談者は高齢者の割合が高く、各関係機関と連携して支援した。

【成果】

- ① 福祉制度の情報提供、視覚便利機器の活用支援
- ② 地域、社会参加に向けての支援
- ③ 傾聴などの心理的サポート
- ④ 広報活動による本事業及び法人の周知促進

【課題】

- ① 相談員の更なるスキルアップ
- ② 関係機関との連携強化
- ③ 後進育成

【実績】

- ① 過去5年間の相談延べ件数比較

2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
1186	1207	1251	1090	1068

② 府内相談会実施状況

実施日	開催地	会場	時間
8月21日	向日市	向日市福祉会館	10:30~15:30
10月16日	京丹波町	京丹波町役場	10:30~15:30
1月16日	八幡市	八幡市文化センター	10:30~15:30
2月19日	精華町	精華町役場	10:30~15:30

F. 法人

1. 事務局

【成果】

- ① 経営戦略会議による、「今後10年取り組むべき課題」の明確化
- ② 盲人ホームから移行した「美鈴治療院」の就労継続支援B型運営における事業の確立
- ③ 洛西寮利用者確保のための広報宣伝活動の拡充
- ④ 洛西寮建物法定是正箇所の更新工事（屋根・非常灯更新）
- ⑤ 職員研修による支援力向上
- ⑥ 虐待防止・身体拘束等の障害者権利擁護の徹底
- ⑦ 再雇用規程の改定（人材確保・働き方改革法案遵守）

《経営戦略会議の設置運営》

月	日	主な内容	出席者数
4	26	事業報告案、就労継続支援事業の積立について、洛西寮新棟検討	8名
5	31	広報担当委員会、洛西寮新棟準備検討、京都の視覚障害者福祉	8名
6	28	障害者基本計画第5次、長期計画、洛西寮新棟準備検討	8名
7	26	洛西寮新棟準備検討、長期計画	8名
8	23	再雇用制度、長期計画、グループホーム事業	8名
9	20	再雇用制度、長期計画、今後10年取り組むべき課題	8名
10	18	再雇用制度、長期計画、今後10年取り組むべき課題	7名
11	22	前半期決算報告、理事会への報告案	6名
1	24	2023年度成果と課題	8名
2	28	2024年度事業計画・予算案、訪問相談事業の予算減	8名
3	27	役員報酬規程改定案・就労A型事業減収対策	8名

《広報活動》

- ・ホームページによる情報発信
- ・YouTubeによる事業活動の見える化
- ・SNSによる洛西寮の活動発信（Instagram・X）
- ・チラシ配布（「見えなくてもできる」東日本基幹相談支援センター）
- ・西京社協「地域あんしん支援員」と8050問題ニーズ共有
- ・京都市地域包括支援センター在宅介護支援センター連絡協議会と8050問題ニーズ共有
- ・機関誌「楽西（らくさい）」の発行 年2回（8月と1月）

《行政関係》

- ・京都府障害者支援課へ「視覚障害者訪問相談員派遣事業」の予算アップの要望
- ・京都府障害者支援課へ視覚障害者関連事業の2024年度予算20%減を受けて、京都府視覚障害者協会、京都ライトハウス、当法人で緊急要望を提出する。（3月26日）

《助成金等関係》

- ・障害者雇用納付金制度報奨金（4,284,000円）

《職員研修》

日程	内容
5月27日	視覚障害理解の向上と同行援護制度を学ぶ
7月21日	見えない、見えにくい方たちの自立とは
10月13日	虐待防止研修
11月8日	普通救急救命講習
1月19日	身体拘束廃止・傾聴の姿勢マスター編

【課題】

- ① 経営健全化を目的とした利用者確保（広報活動による洛西寮周知）
- ② 法人の将来を担う人材育成と人材の確保
- ③ 人事考課とそれによる給与規程改定
- ④ 洛西寮建物の法令是正箇所の修繕及び老朽化への対応（水回り等）
- ⑤ 利用者地域移行施策への対応と洛西寮入所のあり方検討

【実績】

① 事業運営

事業(所)名	サービス事業	事業開始年月日	定員
障害者支援施設 洛西寮 ・洛西寮 ・らくさい作業所	施設入所支援（30名） 就労継続支援B型（40名）	2011年10月1日 2013年4月1日	40名

点字出版施設 紫野点字社	点字出版事業	1982年4月	
京都府視覚障害者訪問相談員派遣事業	訪問相談事業	1977年10月	
美鈴治療院	就労継続支援B型	2023年10月1日	10名
らくさい治療院	就労継続支援A型	2013年4月1日	10名
障害者相談支援事業所 スマイルサポート	特定相談支援事業	2014年3月1日	

② 理事会・評議員会の開催

・理事会

月	日	主な内容	出席者数
5	26	2022年度事業報告並びに決算案について	理事8名 監事2名
6	14	理事長・常務理事の選定について	理事7名 監事2名
9	13	経理規程の改定について	理事7名 監事2名
12	13	定年退職職員再雇用規程の改定について	理事7名 監事2名
3	8	2024年度事業計画・予算案について	理事8名 監事2名

・評議員会

月	日	主な内容	出席者数
6	10	2022年度事業報告並びに決算案について	評議員6名

・監査会

月	日	主な内容	出席者数
5	17	2022年度事業報告並びに決算案について・理事等選任	理事2名 監事2名

③ 法人登記事項

- ・資産の変更登記（6月22日）

2. 主催行事

洛西寮まつり

【概要】

日時：2023年10月21日（土）14:00～17:00

会場：洛西寮

内容：模擬店、遊び、体験・啓発コーナー、大縄飛び大会、大抽選会

【成果】

例年とは時期も内容も大幅に変更し「子ども縁日」と題して4年ぶりに開催した。

お子さんを中心とした近隣の方々にたくさんお越しいただき、初の試みである「大縄飛び大会」では、老若男女問わず参加があり大いに盛り上がった。

来年への期待の声も聴かれ、まつりの意義を感じる事が出来た。

【課題】

- ① 少ない職員数での運営
- ② 適切な開催時期の検討
- ③ 継続した学生ボランティアの確保

【実績】

来場者：200名

協力ボランティア：15名（登録13、学生2）

京都ウェルワイズメンズクラブ 3名

後援・助成：京都新聞社会福祉事業団、読売光と愛の事業団大阪支部

後援：京都府視覚障害者協会、京都市社会福祉協議会

協力：京都ウェルワイズメンズクラブ

3. 共催事業

ア. 第57回白杖安全デー（京都市内）

【概要】

配信期間：2024年3月28日（木）～配信中

企画内容：YouTubeを使用して、視覚障害者の外出の不便、視覚障害者の思いを届ける。

【成果】

動画配信による啓発「なあなあ聞いて！私たちの声 ～視覚障害者の安全な外出のために～」を実施した。短めの動画とし、多くの方に気軽に視聴してもらえるように作成した。

イ. 第49回あい・らぶ・ふえあ（視覚障害者福祉啓発事業）

【概要・成果】

期間：2024年1月27日（土）～28日（日） 午前10時から午後6時

会場：イオンモールKYOTO SAKURA館1F センターコート

来場者数：約260名（2日間合計）

内容：体験型企画

①見え方体験

「街中がこんな感じでみえるんだ」と題したジオラマコーナーで視野狭窄の眼鏡をかけて普段歩いている歩道や、バスの系統番号などがどのように見えるのか、見えづらさ体験を実施した。また、白濁の眼鏡をかけて手元の書類や、壁に貼られた案内などが、どのように見えづらくなるのか、どう工夫すれば読みやすくなるのかなどを学び感じていただく体験とした。そして、視覚障害者の誘導方法についても説明し手引きを理解していただき、視覚障害理解に繋がる機会となった。

②点字体験

「あ、初めてでも読めた！点字体験」では、机に置いたマグネットボードを使いながら、点字の仕組みについて学び、点字で名前を書いていただく体験を実施した。

体験者の方に点字の一覧表（読み書き）をお渡しする中で、「街中で点字を見かけたら、一度読んでみたいと思います。」というお声もたくさんいただき、点字の興味関心、理解に繋がる機会となった。

以上、2023 年度事業報告